

会計学(午前・管理会計論)

本試験

第 1 問

問題 2

～ 略 ～

経理部長： 「そういう状況なのか。対応策も考えないと駄目だね。それでは製造間接費の差異分析はどのようになっているのかな。いやむしろもっと本質的な質問をしてみたい。c 製造間接費に対する原価管理方法は、製造直接費に対するそれと比較した場合、どのような特徴を持っているのかを簡潔に説明してくれないか。」

課長： 「……………，そして当工場では、公式法による変動予算を採用しております。」

経理部長： 「なるほど，では製造間接費の具体的な差異分析方法としてはどのようなものがあるのかな。」

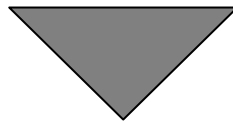
課長： 「はい，これまで二分法，三分法，四分法という差異分析の方法が開発され，使用されてきましたが，四分法による差異分析方法が優れていると言われていています。また，二分法は実務でよく用いられているようです。」

～ 略 ～

問 4 下線部Cについて，製造間接費に対する原価管理方法を製造直接費に対する原価管理方法と比較して述べなさい。

《解答 4》

製造直接費は製品単位当たりで設定した標準に基づいて物量的な管理を行うのに対し，製造間接費は責任区別に設定した予算に基づいて金額的な管理を行うという特徴がある。



論文グレードアップ答練 第 10 回

第 1 問

問題 2

問 6 わが国の「原価計算基準」によれば，製造直接費の標準は，価格標準と物量標準の積として製品単位当たりで算定することになっているのに対し，製造間接費の標準は部門間接費予算として総額で算定することになっている。これは，製造間接費に関しては，製品原価計算用の標準とは別に原価管理用の標準を算定する必要があることを意味するが，なぜそのような区別が必要となるのかを説明しなさい。

《解答 6》

製造間接費は固定費を含むため，製品単位当たりで算定した製品原価計算用の標準に実際生産量を掛けたところで，それがそのまま達成すべき原価の目標となるわけではない。そのため，製品原価計算用の標準と総額としての原価管理用の標準を区別する必要があるのである。